

2019 年度

点検評価報告書

聖学院みどり幼稚園

1. 教育目標

「神を仰ぎ 人に仕う」を建学の精神とし、「神さまの愛を知り、人と共に生きる力を育む」を教育の目標として、神さまの言葉に耳を傾け、祈りつつ、「神と人ともに愛され、自主性を持ち、自発的に行動できる子どもを育てる」ことをめざす。そのため本園では、具体的な教育課題として次の6項目を掲げる。

1. 遊びを通して子ども達の心身の成長(非認知的スキルの育成)をうながしていく。そのために、豊かな経験と知識を持った教員が子ども達の状況を適切に把握し必要な支援を行う。
2. 子ども達自身が個性を伸ばし成長できるための環境作り(個々の興味関心を満たす用具・遊具・自然などが十分に提供される)を重視する。
3. 広い園庭の中、たくさんの草花や樹木や動物たちなど豊かな自然に触れ、いのちの大切さと素晴らしさを自らの身体で知る。
4. 礼拝を通して、一人一人には異なる個性と賜があり全ての者が神さまに愛されている存在であることを知ると共に、他者のために祈る心を養う。
5. ネイティブ教員による「英語の時間」や外国人留学生達との交流を通して様々な文化に対する理解を深め、同時に本物に触れる様々な活動を通して自身の歴史や文化を知り、味わう。
6. 家庭との連携を密にすることにより子育ての教育環境を整え、また子どもの幼稚園時代にしかできない経験を通して保護者自身も子ども達と共に成長していく。

2. 本年度の重点的目標や計画を基に設定した 幼稚園評価の具体的な目標

評価項目に沿って専任教員及び補助教員(非常勤)による自己点検・自己評価を実施し、また保護者等への幼稚園生活に関するアンケートの結果を通し、教員自らが客観的に自己の活動を振り返り、自身と自園を見る目を養い、施設や教育内容の課題を自覚し、改善に向けてそれぞれが主体的に取り組んでいくことを目標とする。

3. 園としての評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み状況
教育課程の編成は幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	新教育要領の理解に努め教育課程の編成にあたっている。子どもの遊びをカリキュラム化し、年間をⅧ期に分けそれぞれに指導目標を明確にしている。
保育の構想・環境設定は教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて計画している。	毎年指導計画に加筆・訂正を行い、子どもの実態に即した内容にするように努めている。
指導計画は子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じている。	教員は日々の報告記録を参考にして子どもの実態を把握し、日案の作成に反映させるようにしている。
教育の質の向上のために、研修を充実させる。	幼児の発達の姿を捉えるための外部研修を長期休暇期間や土曜日、及び午後の保育がない水曜日などを利用して定期的に参加するようにしている。また、日々の子どもの姿について話し合う機会を毎日の報告会(教師会)で持つようにし、自由闊達に意見が開示できる環境をつくっている。さらに、発達に課題を持つ子どもへの対応など必要に応じテーマを定め外部講師等を招くなどして園内研修を実施している。
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラスで学期毎の目標を定め、学期末にその達成状況や課題を報告し合うようにしている。
子どもそれぞれの良さを認めて評価しようとしている。	一人ひとりの子ども達の発達の特性を踏まえて、その良さを認め、教師が客観的に子どもを見る目を養うような話し合いの場を設けている。

遊びを通しての総合的な指導を行う。	自分で工夫して遊び、それが発展して友だちと協力して遊べる環境を、各期毎に目標を定め、遊びの設定を行うようにしている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	登園から降園までの一日の流れのなかで、各年齢に応じて、また個別に身に付けてほしい生活習慣の獲得を促す指導を行っている。
全職員が年に1回以上公開保育を行う。	現在、各教職員間での公開保育という形はとってはいないが、主幹を中心に通常の保育の中でお互いの保育を見合うことにより、より良い保育環境を指摘し合えるようにしている。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	各種研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、職員会議などにおいて提供し、全教員の間で共有化を図るようにしている。
園だよりや合同研修会を通して、幼稚園の情報を発信していく。	園の教育方針や取組みを園だよりに記載すると共に、毎月保護者例会を実施し、教育的課題や幼稚園の現状など様々な情報の発信に積極的に取り組んでいる。
教育目標や短期経営目標と連鎖した評価項目を作成し、実施・反省・対応のサイクルを確立する。	PDCAサイクルを常に念頭におき、より一層充実した教育になるように努めている。
幼稚園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	幼稚園に求められる社会的なニーズは近年大きく変化してきているが、こうした背景を踏まえつつ、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに応える必要があるか、具体的な検討を継続して行っている。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	クラス毎の保護者懇談会を定期的実施するとともに、幼稚園活動、施設・設備、行事などについてのアンケートを毎年度末に実施し、意見や要望をくみ上げるようにしている。また、出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するよう取り組んでいる。
園の財務状況を積極的に公開する。	学校法人として財務状況の公開を行っている。本園としては長年支出超過の状況が続いていたが、入園者数の増加や効率的な運営によりこの数は収支バランスが取れるようになってきた。なお、近い将来の園舎の建て替えや改修に向け、財務状況の改善方策等について法人と協議を続けている。
障がいのある幼児に対して、家庭や関係機関と連携しながらその状態に応じた指導内容や指導方法の工夫をする。	発達に課題を持つ幼児が多いクラスには補助教員を厚くするなど、その状況を十分に把握すると共に、教師会などで情報を共有し必要に応じて家庭や関係療育機関や保健センターなどと連携しつつ指導を行っている。また、外部専門家として発達支援アドバイザーをお招きし定期的にカンファレンス等を実施し、指導内容や方法を工夫している。

4. 教員自身による自己評価結果

評価項目	内 容
I 保育の計画性	
園の教育理念・教育目標の理解	専任者は全ての教員が園の教育理念や教育目標を十分理解し、理念に基づいた教育目標に関して、職員会や教師会などを通して園長や主幹、同僚教員達と意見交換などを行うことができた。補助教員についても、ごく一部の者が十分ではなかったと自己評価したが、それ以外はおおむね教員による園の教育理念や目標の理解は周知徹底されていると考えられる。
幼稚園教育要領の理解	幼稚園教育要領を十分に理解し、園長や主幹、同僚教員と話し合うことに関してやや不足していたと捉える補助教員もあつたが、全体としては問題のないレベルであると考えられる。
教育課程の編成	教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ園の教育理念や目標を基に1年間をⅧ期に区分して編成し、それに基づき保育計画を立てている。教育課程の編成は専任者により行われるが、補助教員についても、本園の教育課程の理解が十分進んでいると判断できた。
指導計画の作成	幼児の発達に即して幼児期に相応しい生活を展開できるよう指導計画を具体的に作成し、幼児の実体や周囲の状況の変化に対応できる順応性あるものとなるよう、各担当が工夫して作成している。また、補助教員についても指導計画についての理解を求めており、特に問題なく全員に協力いただけている。
環境の構成	専任者においては、遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して準備することや楽しい雰囲気の中で安心して遊び込める環境を構成するよう行っている。ただし、異年齢の幼児が自然に交流できるような環境の構成について十分ではないとの意見もあつた。補助教員については、園庭の樹木や草花など、季節による変化について自身の理解が十分ではないとの意見もあつた。
II 保育のあり方、幼児への対応	
健康と安全への配慮	けがや事故に気をつけ、万が一発生した場合は園長や主幹に報告し、保護者と連絡を取り、必要な場合は医師に診てもらうなど適切な処置を行うことができている。また、園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などにも常に気を配るようにされている。
幼児理解	ほぼすべての教員について、常に幼児の姿を多面的に捉えるよう心がけ、幼児の話しをよく聞き、思いを受け止めることに気が配られている。そのため一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配ることができていた。しかし、個々の幼児の発達の姿や課題について、長期的な視点で理解し指導することが必ずしも十分ではなかったとの意見も一部に見られた。

指導とかかわり	幼児を無視したり体罰を加えることはどのような場合もしないよう全ての教員が徹底することは勿論、幼児一人ひとりのありのままの姿を受け容れ、その子の良さを認めるよう心がけている。一方で、幼児が自ら考えたり工夫したりできるよう見守り、行き詰まった時には適切な指導を行えたかに関しては、専任者、補助教員共に十分とはいえなかったとの自己評価が多かった。
教員同士の協力・連携	幼児のことについて教員同士で話し合い共通理解するよう心がけ、クラスに関係なくその場にいた教員が適切な言葉かけや対応をすることができていた。しかしながら、クラス的环境構成などについて、お互いフランクに意見交換し合うことに関して十分とはいえないと捉える教員が専任者、補助教員を通じて見られた。
Ⅲ 教員としての資質と能力	
専門家としての能力・姿勢・義務	専任者については職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守り、服装や身だしなみなどに気をつかい、幼児や保護者との対応には公平さを欠かさないようにしていたとの評価結果であった。また、保護者に対して幼児や自らの保育のことをわかりやすく説明し、保護者との信頼関係を築くことに努め、幼児教育者としての意識が高いことが理解できた。一方で補助教員については、勤務時間以外での幼児教育の専門家としての意識は、必ずしも十分とは言えない面も見られた。
組織の一員としてのあり方	専任者、補助教員を問わず、教職員全員で一つのチームであることを十分自覚し、子どものことやクラスの出来事などで意見を述べ合ったり、お互いに積極的に協力し合ったりする姿勢は、本園としての良い面として捉えることができる。
保育の楽しみ・喜び	全ての教員が、幼稚園教諭として幼児の成長を自分の喜びと感じ、幼児と一緒に生活を創りだすことに誇りと自覚を持って教育にあたっている。
Ⅳ 保護者への対応	
情報の発信と受信	専任者については、保護者に個々の幼児の様子を伝えることに工夫をし、また保護者からの相談や要望に対してはできるだけ心を開いてよく話しを聞くよう心がけていた。補助教員については、自ら情報を発信することは少ないが、保護者から聞かれた場合は、答えられる内容については適切に答えるか、専任者や園長、主幹などに繋ぐなどが適切に行われていた。
守秘義務の遵守	専任者、補助教員を問わず、基本的に個々の幼児や保護者、家族等の情報は口外されることはなく、個人情報の管理についても幼稚園としてほぼ徹底できていた。
対応上のマナー・心構え	その場にあった正しい言葉を使い、保護者からの依頼や伝言についてできるだけきちんと対応するよう全ての教員が心がけていた。
クレームへの対処の仕方	本園ではクレームと呼ばれるようなものはあまりないが、保護者から何らかの指摘等があった場合は、まず謙虚に保護者の話しを伺い、その内容によって園長や主幹に報告し、結果については教員全体で共有するよう心がけた。

V 地域の自然や社会とのかかわり	
地域の自然・人々とのかかわり	近隣地域に対しては、ご迷惑をかける可能性がある園行事等の前にご挨拶に伺うこともあり、また毎年行っているバザーや夕涼み会には地域の方々も多く参加下さっている。ただし、日常の活動においては、本園は地域の行事や自治会等への参加などは十分に行っているとは言えない状況である。
小学校との連携	園としては地域の小学校との連携は最重要課題の一つと考えており、年長児は近隣の小学校との連携・接続プログラムに積極的に参加するなどしている。ただし、年長児担任を除くと、小学校の教育内容への理解など個々の教員の意識としては不十分な面も見られた。
子育ての支援と地域への開放	子育て支援や園の開放などの地域への貢献に関しては、未就園児の親子に時間を決めて園庭を開放するなどの他、園として具体的な形や内容などについて十分に議論できてはいない状況である。
VI 研修と研究	
研修・研究への意欲・態度	専任者については、長期休暇期間中や水曜日午後、土曜日などに実施される研修会や研究会等にはそれぞれの保育に関する自己課題をもって積極的に参加するように心がけられている。補助教員に関しては本人からの希望がある場合を除き、園から外部研修会等への参加を求めることはない。
教員としての専門性に関する研修・研究	幼児の発達理論を学んだり、教育課題や指導計画などに関する研修や研究には関心を持って積極的に対応する反面、保育記録に基づく評価方法や保護者への対応に関する研修や研究については必ずしも十分とは言えない。補助教員については、あくまでも教育の補助という立場であり、専門性に関して積極的な学びの機会などは園内での研修を除き殆ど行われてはいない。
今日的課題に関する研修・研究	発達に課題を持つ幼児やアレルギー、自立遅れなどの幼児への理解と対応などについては比較的関心を持ち研修などにも参加するなど園として積極的に取り組んでいる。しかしながら、預かり保育や子育て支援、幼小連携、危機管理など園としての課題が必ずしも教員一人ひとりの課題とはなっていない面もある。

5. 幼稚園自己評価の総合的な結果

結果	理由
B	<p>本年より教員の自己評価を非常勤である補助教員にもお願いした。教育補助という立場でありながら幼稚園教育の一端を担う者としての自覚と専門性への意識を高めていただきたためであった。結果的には、補助職にあっても教育者としての意識向上と専任者との連携強化に繋がっているのではないかと判断できた。また、ほとんどの教員が幼稚園評価の主旨を理解し、各自が適切に自己点検、自己評価に取り組むことにより、自身の日常の活動を振り返り、幼稚園教員としての自身の現状を把握し、それぞれが取り組むべき課題が明確になってきていると思われた。さらには、このことを通して、園としての教育活動やその他運営に関し、改善、改革すべき課題等が次第に明確になってきている。改革や改善は一朝一夕には進まない部分もあるが、自園の問題点を把握し、より質の高い教育や保育の実践に向けて一層積極的に取り組むことが重要と考えている。</p> <p>保育や教育に関する部分は保護者の方々の満足度は十分高いと思われるが、逆に幼稚園への過大な依存となり過ぎぬよう、常に幼稚園と家庭との連携を意識しつつ、良い協力体制の下で子ども達の成長のための支援を行っていく必要がある。</p> <p>施設面では特に環境整備に力を入れているが、広い園庭の中で子ども達が安心、安全に幼稚園活動を行える環境となるよう常に努力しており、概ね目標を達成できたと考えている。しかしながら、創立40年を過ぎ、現在の園舎は耐震性等に問題はないものの、水回りや電気系統など施設・設備の老朽化が進みつつあり、園舎建て替え等を含む計画的な対応が求められている。</p> <p>その他、本園の教育スタイルが創立以来より遊びを中心とした人間教育、非認知的能力育成の教育であることもあり、近年は教育実習の受け入れ希望が増えつつある。実習生を迎えることは教員にとっては大きな負担にはなるが、若い実習生を通して新たな視点に気づかされることもあり、将来の幼児教育の担い手を育てるという観点から、今後も可能な限り積極的に対応していきたい。</p>

《評価項目》 A…十分達成されている B…達成されている C…取り組まれているが十分でない D…取り組みが不十分

6. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実	地域の幼稚園として近隣の公立小学校への進学を希望する家庭の子女を多く迎える中で、幼児教育と小学校教育との接続、発達に課題をもった幼児の自律支援等について、小学校や療育施設等との交流や研修機会を増やしていきたい。また、近年社会的要請が強まっている低年齢児を対象とする幼稚園教育のあり方に関して、まずは低年齢児の発達特性の研究等を行っていきたい。
情報公開の方法	現在、園だよりや保護者面談・家庭訪問・保育参観・クラス懇談会などを通して子どもたちの状況について保護者への周知には取り組んでいる。しかしながら、近年は夫婦共働きのご家庭も増えており、普段幼稚園に来ることが難しいご家庭との連携について継続検討していく。また園のホームページを全面更新したことにより、より有効な情報公開のプラットフォームとして活用していきたい。
安全管理への取り組み	不審者情報が市教育委員会や警察から随時提供されるようになっているが、それに対する園での対応が必ずしも十分とは言えない状況であるため、施設面での改善と合わせ、教員の意識づけ強化、並びに危機管理マニュアルの作成を行う必要がある。
自己点検、自己評価活動の充実	補助職を含む各教職員においては、点検評価の結果を基に、自ら課題をあげるようにして自己研鑽に取り組むことができるようにしていきたい。

7. 幼稚園関係者による評価

課 題	具体的な感想・意見・提案
在園児保護者(8名(2019年度クラス委員))	
みどり幼稚園の点検評価について	<p>幼稚園による点検評価報告書を拝見させていただき、全体的により良い保育のために先生方が日々努力をしてくださり、様々な観点から沢山の項目を設定し、それに対し真筆に向き合い最善を尽くして取り組んでくださっていることが詳細に記載されており感謝申し上げます。</p> <p>「6. 今後の取り組むべき課題」で、それが以前からの課題があるようでしたら、前回の課題結果としてどうだったのかを別に記載していただけると、みどり幼稚園の取り組みがより理解しやすいのではないかと思います。</p> <p>先生方の自己評価の厳しさに驚きました。それは保育に対してのみどり幼稚園の先生方の真摯な取り組みの裏返しだと思いました。</p> <p>いつも子ども達に対し、温かく愛情のこもった保育をして頂きありがとうございます。点検評価報告書を拝見した第一印象は、報告書にある通りの現状だと私自身も感じていることでした。</p> <p>クラス委員としての活動は終わりますが、これからも先生方と協力してこのような点検評価を継続していただき、私達も子ども達の幼稚園生活を見守っていきたくと思います。</p> <p>保育をはじめとする幼稚園の諸活動について毎年このようなフィードバックを実施されていることがとても素晴らしいことだと思います。</p> <p>先生方の自己評価では、「全教員が幼児の成長を自分の喜びとして感じている」とあり、保護者としてはそこが一番嬉しく安心できる部分でした。</p> <p>今年からは補助の先生方も自己評価をしたというのもとても良いと思いました。みどり幼稚園は小規模なものもあり補助の先生であっても一人一人の先生の影響というのは大きいと考えています。</p> <p>幼稚園の点検評価報告書を拝見し、先生方が子どもたちのことを本当によく考え、より素晴らしいものにしたいという気持ちが表れていると感じました。</p> <p>担任の先生は勿論ですが、園長先生や補助の先生たちも子ども一人一人の名前やその状況を知っているというのはすごいことなのではないかと思います。保護者として安心して子どもを預けることができます。点検評価や保護者によるアンケートの結果を見てもそのことがよくわかります。</p> <p>報告書全体については、図やグラフがあった方がより見やすくなるのではないのでしょうか。</p>

	<p>今回は新型コロナウイルス感染症のこともありやむを得ない面もあるが、このフィードバックをクラス委員に依頼するタイミングやどのような観点で意見や要望をお伝えすれば良いのかについて説明不足があるように感じました。</p> <p>自己点検、自己評価を実施した日程(短期間で行っているのか、1年をかけて実施しているのかなど)がわからない。また、対象となった人数(教員の数)、男女比、年齢、みどり幼稚園の保育者になってからの年数など、対象者に関する情報が見えると理解しやすいと思います。</p> <p>前年度の評価を受けて、その課題に関して実際にどのように実施したことなどがわかるようにしていただけると良いと思います。</p>
<p>みどり幼稚園の保育について</p>	<p>学年やクラスに関係なく聖学院みどり幼稚園として全体の教職員が子ども達を見守ってくださるのをいつも感じております。ありがとうございます。</p> <p>新型コロナによる感染症の拡大という大変な中、子どもたちにとってみどり幼稚園に行けることは本当に幸せなことだと思います。先生方も大変ですが自身のお身体にも十分気を付けてください。</p> <p>毎年行っている保護者へのアンケートからもわかるようにみどり幼稚園への満足度はとても高いと思われます。キリスト教精神に基づく保育は勿論ですが、広い園庭で季節ごとに違った草花や虫たちに触れ、走り回る子どもたちを見れば、本当に園生活を楽しんでいることが伝わってきます。</p> <p>より一層上のレベルをめざすためには課題もあると思いますが、保護者としては今後も幼稚園に理解と協力をし、共に子どもたちの園生活をサポートしていけたらと思います。</p> <p>私自身みどり幼稚園に3人目の子どもをお預けしており、みどりに入れて本当に良かったと感じています。</p> <p>新年早々新型コロナウイルスの流行が大きな社会問題となり、教育機関に与える影響も大きい中、先生方には様々な対応をいただき深く感謝申し上げます。</p> <p>毎年のそれぞれの学年毎の課題に合わせて遊びや行事の内容を考えて下さるので、親も毎年違う体験ができてとても楽しめました。</p> <p>現在の幼稚園の目標等がもっと明確にお伝えいただけると、家庭での保育にも繋げられるのではないかと思います。</p>
<p>園の先生同士や保護者との連携について</p>	<p>近年、みどり幼稚園では園児数が増加傾向にあるため、今まで以上に専任者と補助教員との連携が重要になってくるのではないかと思います。また専任者のみならず補助教員と保護者の関係も子どもや園のことなど情報の共有が不可欠になってくるのではないのでしょうか。</p> <p>園全体で子どもたちを見守って下さっていることに感謝いたします。ただ、現在の園児数</p>

	<p>を限られた先生たちだけでくまなく見るためには限界もあると思います。そのため、子どもが怪我をした時などに近くに先生がおらず状況の説明も子どもがいうことだけでは把握しきれない場合もあることが予想されます。子ども達が怪我をしてしまった場合の報告がない場合もありますので、怪我の大小に関わらず報告していただければと思います。</p> <p>自由保育という中で指導や見守りをする人数の不足が、保育のあり方や幼児への対応の自己評価が比較的低い評価になっているのではないかと感じました。また、子どもの人数が増えていく中での自由保育のあり方、また各保護者の意識の違いを考えさせられることが次第に増えてきているように思います。</p> <p>園長先生が例会などでお話をして下さいますが、子どもにとって大切な《幼稚園での学び(教育)》と《家庭でのしつけ》、この違いを理解できていない保護者が年々多くなっているように感じています。今まで通りに例会等で家庭での取り組みのお願い等が口頭で出来れば良いのですが、コロナ禍の中難しいことも多いと思いますので、お手紙などで連絡をより密にいただけると助かります。</p> <p>クラス便りの配布間隔が不定期なので、クラスの現状を知るツールとして年間の指導計画を8期に分けておられるということですので、そのような節目の時にお知らせ頂けると大変嬉しいです。</p> <p>伝達ミス(配布物の日付ミスや連絡漏れ)が多くなっているように感じています。迅速な対応の為にフェアキャストをもっと活用しても良いのではないかと思います。</p>
<p>みどり幼稚園の施設について</p>	<p>評価報告書にもあるように、建物や施設・設備の老朽化が気になる点ではありますが、何よりも安全第一を最優先にしながら物を大事にするという点からも、良いものは残していつて頂けると嬉しいです。</p> <p>水回りは、天井からの水漏れもあつたので改修をお願いしたいです。</p>
<p>保護者アンケートについて</p>	<p>「保護者のアンケート結果」で、パーセンテージで表している項目については、円や棒グラフなどで表示していただけるとより分かりやすく、理解しやすいように思います。</p> <p>「職員の対応につて」のアンケート項目で、「厳しい」との評価が否定的なのかそうではないのかは不明」とのコメントがありますが、保護者側もどちらの意味で捉えているのか困惑したと思いますので、「適度な厳しさがある」や「厳しすぎる」などの「良い厳しさ」「悪い厳しさ」が分かる項目にいただけたら良いと考えます。</p> <p>保護者へのアンケートは、紙による回収だと筆跡などから名前がわかってしまうなど、保護者にとっては本心を書きにくい場合もあるかと思うので、マイクロソフトteamsアプリのFormsなどを利用して、匿名で実施できると良いと思う。</p> <p>保護者の方からのアンケートですが、前年度のアンケートでも「Ⅷ期に分けた指導目標を保護者にも教えて欲しい」という要望はあったように思います。この要望は、「5.幼稚園評価の総合的な評価結果」にも書かれている「幼稚園と家庭の連携を意識した良</p>

	い協力関係」にも結びつくと感じておりますので、一保護者として期待しております。そのことにより、更なる良い循環が生まれることを期待しています。
卒園生保護者(3人(現在、小学校低学年、高校生、社会人の保護者))	
みどり幼稚園の点検評価について	日々の保育の向上のため、忙しい中、各々の保育について評価していることを素晴らしいことだと思いました。
みどり幼稚園の保育について	<p>これまでもされているとは思いますが、卒園後の小学校への進学を踏まえて、特に年長児には学校生活を意識した取り組みに力を入れていただきたく思います。そのため、卒園児の保護者に小学校入学後困ったことや幼稚園時代にやっていた方が良いことなどもっと聞く機会を持つことも必要ではないでしょうか。ただし、勉強などについては個人的には小学校入学後に行えばよいと考えており、幼稚園時代にやるべきことをしっかり指導していただければと思います。</p> <p>卒園し十数年経ちますが、広い園庭、自然豊かな保育環境が整っていてうれしく思います。</p> <p>卒園児の中にも、虫探しをしたこと、果実を食べたことは心に残るものようです。小学生になってからの生活科の学習での、広場探検などよりどれほど豊かだったか、すぐに語られることです。</p> <p>保育内容については、それを選んで入園させたので、保護者も充分理解し子ども達も好きなことをとことん出来て、楽しかったと満足しています。子どもの個性を大事にして伸ばす保育をしていただきましたが、先生によって差があったと感じることもありました。現在はどのようなのでしょうか。</p> <p>リュックのひもを結ぶなど日常の何気ない事もひとつひとつ成長に役立っていたように思います。</p> <p>それぞれ成長の度合いや達成度が違う子ども達への指導も細く行き届いていたと感じていました。しかし、発達に課題のある子と親に対して丁寧すぎるためか、他の子と違う態度、対応を感じることもあった気がするという方もいました。(それも他の園であればもっと感じるかもしれないと思いますが…)</p>
みどり幼稚園の行事について	行事については、いつも楽しませていただきました。作られたものを見せるだけでなく、どんな気持ちの込められた行事なのか伝わるものが多く、参加する価値のあるものばかりでした。
みどり幼稚園の施設・設備について	施設・設備については、充分そろっていますが、通っていた頃から変わらないと思うと老朽化はやむを得ないと思います。早く施設を新しく整え、施設整備費用を補填することに協力していければと思います。

<p>その他</p>	<p>保護者にとっても色々得意なことがある方と学年を越えて知り合えたこともとても良かったです。</p> <p>子どもにとっても保護者にとっても、安心して通い、個性を伸ばし、成長することのできる楽しい園でした。</p> <p>新しく未就園児クラスや給食も充実したときいています。これからも基本は変えず、時代に合わせた変化を取り入れ、より良い園になり、続いていくことを期待しています。</p>
<p>卒園生(2名(現在、大学生、社会人))</p>	
<p>みどり幼稚園の点検評価について</p>	<p>教育目標の「キリスト教精神」、自己批判等による目標、取り組むべき課題の設定など、多くの面に関して、今後の発展を視野に入れ、内省的に考察できていると感じました。</p> <p>教員自身が批判的に個々人が自覚と責任をもってみどり幼稚園での教育に取り組んでいる様子が垣間見え、更なる幼児理解の発展や、園教育を成長させ地域の中にある幼稚園のひとつとして今後も運営を続け、園としての継続を行っていただけるように感じました。</p> <p>みどり幼稚園自体のこれからに対して、また、今後の幼稚園の在り方に対しても誠実に取り組み、よりよく成長しようとする試みが評価されると思います。</p> <p>同窓生としては、良いものは良いものとして以前と変わらぬ保育が行われており、今後も長く、みどり幼稚園をこの目で見続けることに喜びを感じています。</p>
<p>みどり幼稚園の保育について</p>	<p>「子どもそれぞれの良さを認めて評価」する努力や「遊びを通しての総合的な指導」など、今までも力を入れてきた点を伸ばし、今後も続けていくよう中心に据えているところを高く評価したいと思います。</p> <p>「障がいのある幼児に対して、家庭や関係機関と連携しながらその状態に応じた指導内容や指導方法の工夫をする」という点に、地域やキリスト教、さらには人権的な側面を感じさせられました。</p> <p>みどり幼稚園の保育には、地域や多くの子供たちに、キリスト教を主軸とした様々な人々の助けとなってゆくビジョンがあるように感じました。</p>
<p>その他</p>	<p>『保護者へのアンケート結果』における、「面倒見がよい」といった評価は、大学や他の聖学院の関連校などにおいても重要視されているようにも思うので、この声は非常に大きく評価されるかと思います。</p> <p>総じて、教員の方々や、事務の方、また、それを周りで見守る保護者の方など、多くの方々の努力や、期待などが垣間見え、良い報告を見ることができたことを感じます。</p>

《関係者評価について》今回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、関係者には園の自己評価結果をお送りし、ご意見や感想をお寄せいただきました。また、お送りいただいた原稿については、原文のままではなく内容を変えない範囲で若干の修正を加えています。

(参考資料) 保護者へのアンケート結果

アンケート項目	結果と主な意見
保育内容について ①「遊びの中から興味や関心を持ち、自発的に考える力や対人能力を身につける保育について」 ②「神さまを礼拝する心を養うと共に、人と協力し奉仕する精神を育てる保育について」 ③「幼児として身に付けておきたい基本的生活習慣を身につける保育について」	①については95%、②については88%、③については93%が良いと評価して下さった。評価の理由としては、「楽しいこと、好きなことをしながら成長している様子が感じられる」「神さまに感謝したり、他人の幸せを願う気持ちが芽生えているようだ」「それぞれの子どものペースを尊重して忍耐強く見守ってくれている」などがあげられている。また意見として、「小学校以降の学びに繋がるような具体的な対応があるのか」「1年をⅧ期に分け期毎にねらいを定めているとのことだが、保護者にも内容を教えていただけないか」などの声があった。
教員の対応について	卒園生と在園生それぞれの保護者への質問内容は若干異なる部分もあるが、教員の対応に関して選択肢の中から50%以上の方の支持を得たものは「面倒見が良い」「温かい」「個性尊重」などであった。少数意見としては13%の方が「厳しい」と評価されているが、それが否定的な意味なのかそうではないのかは不明である。選択肢以外に、「子どものことをよく見ている」「対応が丁寧」などの意見もあった。また、園長や主幹に関しては「毎朝子どもを出迎えてくれる」「例会での話しがとても勉強になる」「困ったことの相談にのってくれる」など概ね肯定的に捉えて下さっていた。
事務員の対応について	事務員の対応に関して選択肢の中から50%以上の支持を得たものは「温かい」「面倒見が良い」「まじめ」などであった。その他「電話での対応が親切」「子どもが勝手に事務室に入っても温かく迎えてくれる」などの意見があった。
行事について ①行事全般について ②行事の量について	本園の行事に対する評価は85%の方が良いと評価下さり、良くないとされた方はなかった。行事の量に関しては60%が普通(適切)と評価下さったが、多いと評価された方も36%あった。意見として、「小さな子どもがいると参加が大変」「親が子どもと一緒に楽しめるのが良い」「保護者の負担は大きいながらも含めて楽しめた」「バザーは保護者の負担が大きい」「土曜日の行事で月曜日が代休となり困った」「キリスト教の行事や季節毎の楽しい行事がいっぱいあり楽しく参加できた」などがあった。
施設・設備について	施設設備に関する評価は年長児保護者をお願いをしたが、「良い」と「普通」と評価された方が合わせて77%であった。但し、「老朽化が進んでいる」とされた方も40%あった。特に良いと評価されたものは「園庭」100%、「保育室」69%、「プレイルーム」52%などであった。逆に悪いと評価されたものは「大人用トイレ」37%であった。年少・年中児保護者を含めた意見としては「園庭やプレイルームが広くて伸び伸びと活動できる」「自然や緑が多い」「施設は古いが清潔」「トイレの水回り、プレイルームの床など老朽化してきている」などがあった。
遊具・絵本等についての意見	「園にある玩具や絵本はとても質が高い」「二階の図書コーナーの絵本は良いものが沢山あり、年長以外にも貸し出ししていただけないか」「園内の先生や子どもたちによる季節毎のディスプレイがとても素敵」「園庭の古くなった遊具を更新して欲しい」「子どもたちが安全に遊べるよう常に点検して下さいありがとうございます」など

	の意見をいただいた。
オリーブクラス(朝、保育後、長期休暇中の預かり)について	朝は8時から、保育後は午後6時まで、長期休暇中は土・日・祝日、夏の園閉鎖期間(約1週間)、年末年始などを除きオリーブクラスを行っているが回答下さった全ての方が現行のまま継続して欲しいとの意見であった。なお一部の方からは、土・日・祝日、夏の園閉鎖期間などにも出来ないかとの要望もあった。
給食について	現在は「月」「火」「木」がお弁当、「金」及び午後保育のある「水」が給食(給食業者による外部委託方式)となっているが、78%の方が「現状で良い」と考えておられる反面、23%の方が「もっと給食を増やして欲しい」との回答であった。
<p>全体評価(卒園児保護者のみ)</p> <p>①子どもにとってみどり幼稚園は何点？</p> <p>②保護者にとってみどり幼稚園は何点？</p> <p>③本園の印象を一言で表すと？</p>	<p>卒園を控えた園児の保護者に左記①～③の質問をした結果は以下の通りであった。①については平均9.8点(10点満点中、最高10点、最低9点)、②については平均9.0点(10点満点中、最高10点、最低6点)であった。また本園の印象について選択肢の中から50%以上の方から選択された項目は「温かい」90%、「個性重視」86%、「楽しい」75%、「面倒見が良い」63%の順番であった。その他「手作りが多い」「親の負担が大きい」についてもそれぞれ40%、32%あり、ある意味で本園の特徴をよく表した結果とも思われる。</p>

(保護者への幼稚園生活アンケートは3月上旬に全園児保護者に配付し(卒園予定者と在園者の内容は異なります)、無記名で回収しました。回収率は年少70%、年中80%、年長(卒園予定者)93%でした。)